広報あつま

2010 11

No. 699

いのち満ちる　農（みのり）の里あつま　大いなる田園の町

利用する親子とスタッフの声

たくさんの親子に来てもらいたいですね。ここは『みんなが心から楽しめる場所』。とにかく楽しくにぎやかに遊びましょう！そんな思いが利用する方々に伝わればうれしいです。毎月の活動内容やイベントを考えていく中で、お母さんたちの意見も取り入れながら作ってるんですよ。何気ない会話がヒントとなり、「おいしい紅茶の入れ方」や「フェイスマッサージ」の講座を実際に開きました。お互いに慣れるまで大変かもしれませんが、私たちは育児のサポート役です。いろんなことを一緒に考えていきましょう。待ってますよ！

安藤　志帆さん（新町）
乃咲ちゃん（3歳）

週2～3回ぐらい利用しています。家に親子でず～っといるとストレスが溜まるので助かります。お母さん方も気さくな人が多いので入りやすいし、先生もフォローしてくれるので孤立することはありませんね。

細井恵子先生

宮本紗綾乃さん（本郷）
陽彩衣ちゃん（3歳）
眸征くん（9カ月）

子育てしている中で息がつまる場面もありますが、ここに来ることが親子ともに気晴らしになってます。札幌から越してきたんですが、センターのおかげで多くのママ友ができました。

瀬背　真代さん（浜厚真）
莉央ちゃん（1歳）

きっかけは、主人の同僚の奥さんに誘われたから。地域に子供同士が遊べる施設・場所がないので、遠いんですけど通ってます。ここに来ることで、マチの情報を得て行事などにも参加できるようになりました。

松本佐智子さん（新町）
侑大くん（2歳）

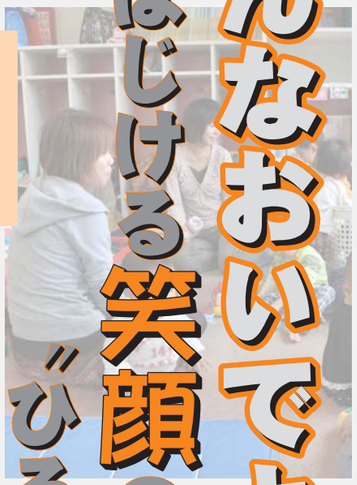
毎月の『あそびの広場』は毎回参加してますよ。子どもの表情を見てたら楽しんでるのがよくわかります。指あそび、読み聞かせ、工作、お遊戯など遊びのメニューが充実。家でできない遊びができていいですね。

深藪　理恵さん（桜丘）
光希くん（2歳）

センターに通うようになって子供が人見知りしないようになりました。同年代と交流することで、親子ともに成長しているのかなと思います。一人っ子なので、ケンカする事の大切さなんかもここで覚えてますね。

特集　みんなおいでよ！

はじける笑顔の“ひろば”



気軽に利用しよう！「子育て支援センター」

町内にお住まいの子育てにかかわる人なら誰でも利用可能な「子育て支援センター」を皆さんは知っていますか？

就学前の親と子どもが気軽に集い、子育てに対する不安や悩みの相談、子どもたちも愉快に遊べる〝みんなのひろば〟なんです。

平成16年に厚真町初の子育て支援センターが京町保育園に開設。以来、たくさんの親子が利用し交流の輪を広げています。あつまの子どもの未来をはぐくむことを目的に、厚真町次世代育成支援行動計画として平成17年には「つくしんぼプラン」が策定され、すべての子育て家庭を応援しています。

親子の笑顔がひろがり 今日もやさしい風が吹く 『子育て支援センター』

平成17年３月、町では子育てを町全体で支えることをまちづくりの重要な課題ととらえて『つくしんぼプラン（厚真町次世代育成支援行動計画）』を策定しました。

平成22年４月からは、その後期計画（平成22年度～26年度）がスタートしています。

今回の特集では、子育て奮闘中のお母さん・お父さんはもちろん、その家族の方々にも気軽で身近な存在に感じてほしい“場所”である『子育て支援センター』の事業などについてご紹介します。

子育て支援センターってこんなところですよ。

年齢の近い子ども同士が遊んだり、親たちが育児についての情報交換をしたり、スタッフに相談したり…。

リラックスした気分で、育児の身体的、精神的な負担を軽減できる“ひろば”です。

■利用対象…町内に住所を有する就学前の子どもとその家族。子育てに関わっている人なら誰でも利用できます。

■利用時間…月～金曜日。午前10時～11時半、午後は１時～４時です。土・日曜日、祝祭日、年末年始はお休みです。

■活動内容…育児相談・親子遊びなど。詳しくは右記の『ゆうゆう島』情報を参考にしてください。

（※毎月の広報紙で活動内容を紹介しています。月によって内容は変更します）

キッズ11月の予定

子育て支援センター「ゆうゆう島」情報

月	火	水	木	金
1 「Hello　え　いご!」、開放日	2 開放日	3 休館日	4 開放日	5 開放日
8 「Hello　え　いご!」、開放日	9 開放日	10あそびの広場 『うさぎのマラカス』 ※敬老の日プレゼント前日までに予約してね	11 開放日	12 開放日
15 開放日	16 開放日、保育園ホール開放	17 子育て講座 『ベビーマッサージ』 （要予約）	18 開放日	19 開放日
22 開放日	23 休館日	24あそびの広場 『かくれんぼツリー』 ※前日までに予約してね	25 開放日	26開放日、午後はおもちゃ洗いのため休館
29 開放日	30 開放日	毎週水曜日の午後はサークル活動利用日です。お母さんたちの集まりにご利用ください。（予約が必要です）		

★子育て支援センター「ゆうゆう島」ホームページはこちらからどうぞ！
厚真町ホームページ　http://www.town.atsuma.lg.jp/
→トップページ→ 教育・文化→ 子育て支援センター

〝学び・体験の場〟の提供「未来を担う子どもたちへ」

子育て支援センターは、子育て真っ只中の親だけが活用しているわけではありません。子どもたちと遊んだりふれあうのが好き、将来保育士を志している高校生、短大・専門学生などにとっても、体験や実習の場として重要な役割を果たしています。

ほぼ毎年、6月に職場体験として保育園で受け入れられた高校生が、支援センターにもお手伝いに入り、子どもたちと楽しくふれあっています。

そして短大・専門学生は、保育士の卵として専門的な部分を実習の中で学び、子育てや家族について考えるきっかけづくりとして、子どもたちだけではなく親と直接会話をしたり、学校で習った理論を実践できる〝学びの場〟にもなっています。

「実際の現場での、子ども同士のケンカの対応がむずかしい」、「将来このマチで保育士として働きたい」、「先生方の子どもたちへの接し方が自然で勉強になった」、「子どもたちだけでなく、お母さんたちにとっても癒しの場所だと感じた」、「地域の親子が交流できるこういった場所があるのを初めて知った」などの感想が寄せられました。

体験取材　支援センターに行ってみました

まずは自分の目で見る、子どもにふれる、お母さん方の世間話にまぜてもらう。体験することが大切だと思い「子育て支援センター」で半日を過ごしてみた。

10月12日午前10時、総合ケアセンターゆくりで『歯科検診』もあったせいか続々と親子が訪れ、15分後には早くも13組目が来園。子どもたちは自由気ままにおもちゃや遊具で遊び、その横でお母さんたちは育児などについて楽しくおしゃべり。

支援センターの利用は主に午前中が多く、曜日は天候状況や家庭での家事の状況などで利用状況がまちまちとのこと。室内を眺めていると子ども同士が夢中で遊んでいる間に、スタッフに育児についての相談をしたりとお母さんたちが有意義に支援センターを利用している姿が見受けられた。

お母さんの一人は「他のマチから今年引っ越してきた。ここの支援センターはイベントなども多いし、母親だけの講座や教室もあるなんて初めてでうれしい」との声もあった。

年１回行われるママさんの人気イベント「フリーマーケット」

体験取材　『あそびのひろば』って何?

毎月２回、支援センターで行われている『あそびのひろば』に行ってきた。10月13日、この日参加した親子は、10組22人。いつもこれぐらいは集まっていると先生はニコッと笑い、話す。

『あそびのひろば』は10時半にスタートし、全員で「おはようございます」のあいさつから始まり、指遊び、絵本の読み聞かせ、工作、お遊戯、カードゲーム、パネルシアターとたくさんの遊びが凝縮されていることに驚いた。この空間を子どもたちは縦横無尽に走り回っている。ひとしきり遊んだあとは、アンパンマンのあいさつで解散した。

親子が入れ替わりながら丸6年続いている『あそびのひろば』、子どもたちを飽きさせず遊ばせてあげることが１番の目的だ。多種多様な遊びが用意されているためか、50分間があっという間に感じるほどメニューが充実。最後はお母さん方も「あれっ！もう終わり?」と言いたげな表情を浮かべる。１組の親子に『あそびのひろば』について聞いてみた。「敬老の日にメガネケースを作っておじいちゃんにあげたんです。とっても喜んでくれたんですよ」とここで築いた思い出を話してくれた。

「イモほったどぉ～」

畑作ボランティアの方といっしょに、サツマイモやカボチャを収穫する子どもたち

収穫したサツマイモを先生方が焼きイモに！ホクホクの焼きイモをみんなで食べました

一人で悩まず上手に利用して「笑顔で楽しく子育てを」

子育て支援センターを利用する必要性を感じていない子育て家族も、もしかするといるのかもしれません。ですが多くの場合子育てにおいて『悩まない（あるいはストレスを感じない）』という人は、ほとんどいないのではないでしょうか。時には周りの人に愚痴をこぼし、共感なりを得ることはストレスを溜めないためにも大事なことだと思うのです。

だから子育てが「ちょっとしんどいな～」と思った時には、ぜひ子育て支援センター〝はじける笑顔のひろば〟のことを思い出し、遊びに行ってみませんか。

これからも、親子で交流の輪がひろがる空間であることを願っています。

子育て講座「親子料理教室」

ハロー英語！「ハロウィン」

支援センター開設以来、週３～４回のペースでお手伝いに入っています。遊びに来る子たちは、お利口さんばかりでいつも感心します。ここでお母さん同士が友達になっていく場面を見てると、なんだか私もうれしくなります。

柳田　由美 先生

平成21年度『子育て支援センター』をこれだけの親子が利用しました。

平成21年度 子育て支援センター利用者数

月別	利用者人数合計	利用者率
4月	（開放日数 20日）合計114世帯	5．7世帯
5月	（開放日数 18日）合計104世帯	5．7世帯
6月	（開放日数 22日）合計167世帯	7．6世帯
7月	（開放日数 21日）合計134世帯	6．5世帯
8月	（開放日数 19日）合計105世帯	5．5世帯
9月	（開放日数 18日）合計120世帯	5．5世帯
10月	（開放日数 19日）合計76世帯	4．0世帯
11月	（開放日数 16日）インフルエンザの為３日間閉鎖 合計42世帯	2．6世帯
12月	（開放日数 19日）インフルエンザの為の影響 合計84世帯	4．4世帯
1月	（開放日数 15日）インフルエンザの為の影響 合計82世帯	5．5世帯
2月	（開放日数 19日）合計101世帯	5．1世帯
3月	（開放日数 21日）合計149世帯	7．3世帯
合計	（開放日数 227日）合計1276世帯	5．6世帯

世帯数50件（子供の人数兄弟を含めて56人の登録）
※月平均利用者数　106．5世帯
年間延べ利用者数　1．276世帯
1276÷227日＝5．6（1日平均利用率）

厚真町子育て支援センターは、育児相談や情報交換をする機会が少ないお母さんたちが気がねなく集まり、つながりあうことのできる場です。

いろいろな情報の提供や子育てでわからないことがある場合は、職員が相談に応じています。また、子育てサークル活動や子育てに関する講座の開催なども行っております。

子どもの健やかな育ちと、よりよい子育てにつながりますよう皆さんお気軽にご利用ください。

子育て支援センター長
加藤　恒光

問い合わせ先
子育て支援センター
☎27－2438（直通）

マチの家計簿

平成22年度各会計の予算執行状況

―平成22年9月30日現在―

皆さんに納めていただいた税金や国・道からのお金は、どのくらい使われているのでしょうか。

地方自治法および町条例の規定に基づいて、今年9月末現在の平成22年度各会計予算の歳入・歳出、地方債、財産の状況についてお知らせします。

平成22年度各会計の予算執行状況（平成22年９月30日現在）

特別会計の状況

市町村の財政には「一般会計」と「特別会計」の２種類があります。一般会計は、市町村の財政の基本を示す家計簿といえるもので、税金などの収入を示す「歳入」とその使い道を示す「歳出」の２つから成り立っています。

特別会計は、市町村が行っている特別の事業に対して、支出や収入を分かりやすくするために一般会計とは分けて経理するものです。

厚真町には、平成20年度から「後期高齢者医療特別会計」が１つ増え、７つの特別会計があります。

ソーラーパネルが学校屋上に設置され、その働きについて授業で学ぶ中央小の４年生の皆さん

（単位：円）

特別会計名	予算現額	収入		支出	
		収入済額	収入率％	支出済額	執行率％
国民健康保険事業	698,328,000	238,765,022	34.2	283,184,429	40.6
老人保健	1,051,000	285,511	27.2	5,200	0.5
介護保険事業	427,718,000	168,632,445	39.4	158,852,843	37.1
介護サービス事業	28,600,000	962,716	3.4	11,773,182	41.2
簡易水道事業	256,100,000	52,245,551	20.4	80,955,401	31.6
公共下水道事業	188,600,000	18,064,458	9.6	60,992,534	32.3
後期高齢者医療	64,600,000	18,143,100	28.1	17,732,416	27.5

地方債の状況

国などから借り入れた長期間の借入金をいいます。

区　分	金　額
一　般	81億4,301万９千円
簡易水道事業	９億60万７千円
公共下水道事業	13億8,252万７千円
合　計	104億2,615万３千円
H22.3末対比	▲２億1,897万５千円

※地方債のうち、内容によっては返済額の一部が地方交付税で補てんされるものもあります。

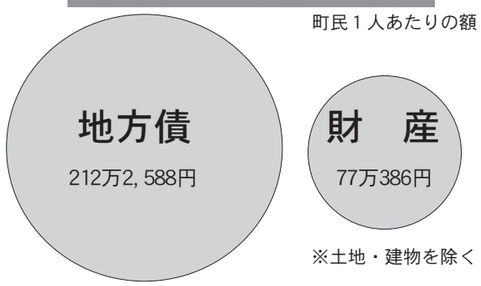
一時借入金の状況

一時的に金融機関から借り入れして支払いに充てるお金をいいます。

区　分	金　額
一般会計	無　し
特別会計	無　し

地方債と財産の比較

町民１人あたりの額



※土地・建物を除く

財産の状況

財産は、出資による権利、債権、土地・建物のほかに、特定の目的のために準備しておく元手の資金をいう基金があります。

町には財政調整基金など20の基金があります。

区　分		金額(千円)
出資による権利		176,038
債　権		185,642
基金	財政調整基金	1,014,522
	減債基金	103,254
	地域振興基金	525,963
	緑化事業基金	22,116
	文化振興基金	17,914
	水基金	917,663
	土地開発基金	139,333
	介護保険給付費等支払準備基金	38,924
	総合ケアセンター維持運営基金	104,105
	庁舎建設基金	314,719
	中村教育振興基金	3,527
	高齢者グループホーム運営基金	877
	公共施設維持補修基金	64,029
	かしわ公園スポーツ施設維持補修基金	15,248
	エンゼル基金	68,644
	簡易水道基金	23,297
	公共下水道事業基金	30,118
	国民健康保険給付費支払準備基金	16,799
	介護従事者処遇改善臨時特例基金	1,403
	石油貯蔵施設立地対策等基金	0
	基金　計	3,422,455
合　計		3,784,135
H22.3末対比		▲377,231

土　地	建　物
22,881,933.70㎡	84,468.16㎡

一般会計の状況

歳　入

（単位：円）

	予算現額	収入済額	収入率％
町　税	1,729,800,000	989,982,479	57.2
地方譲与税	102,500,000	30,798,136	30.1
地方消費税交付金	54,000,000	31,266,000	57.9
地方交付税	1,556,000,000	1,087,896,000	69.9
分担金・負担金	61,203,000	5,880,190	9.6
使用料・手数料	94,872,000	40,757,378	43.0
国庫支出金	585,580,000	57,686,967	9.9
道支出金	530,452,000	59,888,507	11.3
財産収入	51,756,000	26,616,737	51.4
繰入金	769,710,000	599,367,779	77.9
繰越金	49,145,000	95,915,401	195.2
諸収入	162,767,000	22,995,606	14.1
町　債	992,772,000	0	0.0
その他	32,411,000	19,540,400	60.3
歳入合計	**6,772,968,000**	**3,068,591,580**	**45.3**

歳入のその他の内訳

	予算現額	収入済額	収入率％
利子割交付金	2,100,000	723,000	34.4
配当割交付金	400,000	112,000	28.0
株式等譲渡所得割交付金	300,000	0	0.0
ゴルフ場利用税交付金	1,000	1,400	140.0
自動車取得税交付税	18,000,000	7,929,000	44.1
地方特例交付金	10,200,000	10,227,000	100.3
交通安全対策特別交付金	1,400,000	548,000	39.1
寄附金	10,000	0	0.0
その他計	**32,411,000**	**19,540,400**	**60.3**

歳　出

（単位：円）

	予算現額	支出済額	執行率％
議会費	44,159,000	21,225,556	48.1
総務費	763,952,260	189,800,286	24.8
民生費	755,781,000	225,786,573	29.9
衛生費	232,430,000	90,227,394	38.8
労働費	47,459,000	15,679,426	33.0
農林水産業費	1,358,974,051	1,026,865,820	75.6
商工費	65,659,000	52,125,426	79.4
土木費	698,540,000	200,966,945	28.8
消防費	309,471,000	138,961,300	44.9
教育費	552,378,770	201,067,226	36.4
公債費	1,084,832,000	503,414,468	46.4
給与費	831,687,000	417,715,086	50.2
予備費	3,176,919	0	0.0
災害復旧費	24,468,000	1,284,150	5.3
歳出合計	**6,772,968,000**	**3,085,119,656**	**45.6**

一般会計、特別会計を合わせた予算84億3,796万５千円を町民１人あたりにすると、171万7,827円です。

１世帯あたりでは、412万100円になります。

◆町の人口

人　口	4,912　人
世帯数	2,048　世帯

（平成22年９月末現在）

虫歯が１本もない
23人の子どもたちを表彰

11月４日、総合ケアセンターゆくりで「虫歯のない子表彰式」が行われ、23人（50音順で掲載）の子どもたち一人一人に宮坂町長から賞状と記念品が手渡されました。

宮坂町長が「今年も虫歯のない子が多くて大変うれしく思います。歯は健康につながるものなので、これからも大切にしてください。食べた後は、必ずハミガキをしましょう」と子どもたちに話しかけていました。

今回の表彰は、平成18年４月２日から平成19年４月１日までに生まれた37人が対象で、今年度の歯科健診受診者から選ばれました。虫歯のない子の表彰は、今回で18回目となり、今年の23人を含めて今までに289人が受賞しています。

阿部ひかりちゃん（上厚真）

金澤優奈ちゃん（本　郷）

金谷梨央ちゃん（上厚真）

兼本洸埜くん（鯉　沼）

久保田哲平くん（新　町）

小向　凌くん（厚　和）

近藤琉惺くん（表　町）

寒河江瑞希ちゃん（上厚真）

佐藤涼太くん（表　町）

鈴木克実くん（表　町）

髙橋優空ちゃん（表　町）

龍崎七海ちゃん（本　郷）

藤樫悠人くん（上厚真）

西森悠翔くん（上厚真）

沼田咲羽ちゃん（表　町）

野村　優ちゃん（本　町）

濱島和希くん（本　郷）

濱島悠希くん（本　郷）

深澤菜々美ちゃん（富　里）

星野陽平くん（本　郷）

堀内雪花ちゃん（新　町）

山川和輝くん（表　町）

山崎煌丞くん（鹿　沼）

第11回 健康ふれあいマラソン大会

さわやかな秋晴れのもと田園を駆け抜ける!!

第11回健康ふれあいマラソン大会が10月11日体育の日、スポーツセンター周辺を会場に３㌔・５㌔コースに町内小中学校、高校、一般から126人が参加し行われました。

秋晴れの絶好のコンディションの中、選手たちはさっそうと駆け抜け、親子などで参加したウォーキングの部では、田園の中を気持ちよさそうに歩いていました。

第11回健康ふれあいマラソン優勝者
（各部の右は男子の部、左は女子の部、敬称略）

※中学生男子、一般男子は５㌔、ほかは３㌔。
※新は、大会新記録

1年生の部

藤田李望（中央小）
15分59秒　新

中野麗斗（上小）
20分54秒

2年生の部

山野下明音（中央小）
17分59秒

宮野大和（中央小）
15分25秒

3年生の部

森山明日香（富小）
16分34秒

滝　壮一郎（上小）
18分14秒

4年生の部

松井　遥（中央小）
14分49秒

奥井宜哉（上小）
14分31秒

5年生の部

下川原沙希（富小）
15分53秒

米澤史弥（中央小）
14分48秒

6年生の部

森山陽花（富小）
16分32秒

米澤祥平（中央小）
13分31秒

中学生の部

中島結衣（厚南中）
13分37秒

立浪諄弥（厚中）
26分51秒

一般の部

石崎広子（新町）
14分02秒

日下　剛（上厚真）
19分11秒

カメラアングル

1大会を盛り上げる上小の宮脇先生 2仲良く走る大浦さん親子 3３㌔の部優勝の米澤くんが１番にゴールテープを切る 4飲み物を飲みながら健闘をたたえあう子供たち 5最後のグラウンド一周、最終コーナーでラストスパートする森田さん 6３㌔を歩き通した真野さん親子。出場選手中、最後にゴール。心地よい疲れに笑顔。

10月のまちの話題

富野小で閉校記念碑除幕式
111年の歴史と同窓生1323人の思いを碑に込める

来年3月末に閉校を迎える富野小（山本他喜男校長）で10月24日、文化祭に合わせ閉校記念碑除幕式が行われました。除幕式には在校生や教職員をはじめ、同窓生や来賓など約100人が参列。記念碑は協賛会が閉校を前に思い出づくりとして企画したものです。

協賛会の田中俊幸会長は「この記念碑には7人の児童や教職員をはじめ、同窓生1323人みんなの思いが込められている」とあいさつ。続いて宮坂町長が「これまで大勢の有意義な人材を輩出してきた。厚真の新たな教育の出発点。このよき日をみなさんの思い出の1ページに加えて」と呼びかけました。

碑に記された「光・緑・夢」と並ぶ3文字は、学校農園での栽培活動や身のまわりの動植物に親しむなど環境教育をはじめ、これまで様々な体験的学習活動に取りくんできた同小の合言葉。

式終了後は、体育館で昼食会がにぎやかに開かれ、関係者は尽きない学び舎の思い出をいつまでも語り合っていました。

記念碑を前に富野小の思い出を語り合う参列者

あつママくらぶの「もぎたて市」最終日
まちなかに多彩な交流がひろがる

農家の主婦5人で構成するあつママくらぶ（石橋実穂子代表）の「もぎたて市」が10月14日、年内最終日を迎え主婦を中心に多くの人が来場しました。オープンは6年目で、6月から始まり毎週木曜日の営業スタイル。

今年は新たな出店者に呼びかけ、手づくり子ども服や雑貨、お菓子なども販売してもらい会場はにぎわいをみせていました。同メンバーの酒井敏江さんは「人が人を呼ぶんですね。出店者同士の多彩なコラボレーションがよかったのでは。来年以降もこの輪がひろがってほしい」とニッコリ。最終日ということで、同メンバーが丹精込めて作った米や野菜でおにぎりと豚汁が振舞われ、買い物客は食事をしながら団らんを楽しんでいました。

多くの買い物客でにぎわう「もぎたて市」

大沼野営場が音楽一色に！ 野外音楽フェス開催

自然の中で音楽やアートを楽しむ野外音楽イベント「old camp」が大沼野営場で10月1～3日まで開かれ、木々に囲まれたステージでは、歌やＤＪパフォーマンス、屋台や手作り雑貨の店舗、新鮮野菜の販売などに多くの来場者が楽しんでいました。苫小牧の飲食店の従業員たちが中心となり初めて企画。

ライトアップされた夜のステージ場では、出演者が奏でる重低音の音が鳴り響き、来場者はリズムに乗り思い思いに時を忘れ楽しんでいるようでした。

お宝ズラリ 保育園でフリマ

子育て支援センターを利用する子育てサークルの主催による恒例のフリーマーケットが10月2日、同センターで行われました。

物を大切にしようという目的で、無料で提供されるこのフリマは今年で5回目。地域や利用者から無料で提供を受けた子供服をはじめ玩具など、年々品揃えも充実し来場するお母さんたちも増えています。訪れたお母さんたちは、会話を楽しみながら我が子に似合う品物を選んでいました。

「歯を大切にしようね！」
保育園などで歯科検診

町が行っている歯科検診・フッ素塗布が保育園などで、9月28日から10月18日の期間で行われました。今回の受診者は幼児を対象に約200人。この健診は幼児期からの虫歯を予防するため、正しい歯みがきの指導や口内の健康を獲得してもらうことが目的です。笹森保健師は「生涯健康な歯を守るためにも、幼児期からのケアが必要なので必ず受診してほしいです」と話していました。

秋恒例の防火パレード
園児が火災予防を呼びかけ

町消防団（蔵重豊一団長）などでは、10月15日から30日までの16日間にわたる秋の火災予防運動に合わせて10月15日、総合福祉センターで防火の呼びかけを行いました。京町保育園の年長園児、町消防団、消防署など関係者約50人が参加。

この日はパレードが中止になるほどのあいにくの雨模様で、消防車や救急車などの車両のみが地域を回り火災予防のＰＲを行いました。

父の住むマチに絵本を贈る
絵本作家・石橋真樹子さん

神奈川県で絵本作家として活躍している石橋真樹子さんから絵本「カマキリのかんちゃん」が町内の保育園や図書館などに139冊贈られ、10月12日、父親の俊樹さん（豊沢・ルーラル）が京町保育園を訪れ園児に1冊ずつ手渡しました。絵本の寄贈は、平成18年の「うみのごちそう」をかわきりに今回で4冊目。父親である俊樹さんは「絵本は子どもたちの豊かな情操をはぐくむことができる。幼児期から多くの本に親しませてあげたい。娘も同じ気持ちなんですよ」とにこやかな表情で話していました。

石橋さんから絵本を受け取る園児たち

なごやかな雰囲気での講習会

国際理解を深めるため
教職員対象の外国語研修会

厚真町国際理解推進委員会主催の「外国語教育に関する講習会」が10月6日、上厚真小学校で行われました。この講習会は、教職員の英語指導力の向上と国際教育の理解を高めていくことをテーマに開催されたもので、町内の約40人の教職員が参加。講師の洞爺湖温泉中学校教諭大塚謙二さんは「指導においてイラストや音楽を用いて楽しく英語にふれさせてあげることが大事。子どもたちが英語を学習する中で『へぇ～』という感動や納得する場面をいかに多く作れるかが大切」と教職員を前に呼びかけていました。

まちの話題　plus

新米を一升枡にすくうお客さん

味覚の秋「厚真の特産品をどうぞ！」

商工会青年部と農協青年部で組織するあつま新撰組（桜井裕司会長）が、安心安全でおいしい厚真の特産品をPR・販売するため行っている「あつま特産市」を10月16日、苫小牧市内のスーパー前で行いました。

この場所で行うのは今年で5回目で、メークィンやカボチャ、大根などの農産物をはじめ、おふくろ味噌、あづまジンギスカン、精米機持参の擦りたての新米「ななつぼし」など厚真の味覚が盛りだくさん。法被に身を包んだ青年部員たちの威勢のよい声が響きわたり、多くのお客さんがあつまの特産品を前に足を止めていました。

厚真消防団が訓練用機材を導入

胆振東部消防組合厚真消防団（蔵重豊一団長）は、ふるさと消防団活性化事業の一環として防災訓練や応急手当講習用の機材を導入しました。

今回導入されたものは、訓練用消火装置（水消火器）・スモークマシーン（人体に無害な煙を発生させる装置）・訓練用除細動器（AED）の３器。

この日厚真支署を訪れた蔵重団長は「消防署と連携しながら、住民や学校などに対する防火啓発に活用していきたい」と述べていました。

これら機材は、事務所・各団体から訓練や講習の要望があれば随時、活用していくとのことです。（消防署厚真支署・電話26－7119）

訓練等の連携を約束する蔵重団長と吉村支署長

「心を込めて大切に育てたカボチャです」

富野小で作った最後のカボチャを学校給食に

兵頭教育長にカボチャを手渡す富野小児童

富野小学校（山本他喜男校長）の全校児童が学校給食センターに寄贈しようと総合的な学習の一環として、カボチャ栽培に取り組み、収穫したカボチャ 120kgを10月15日、体育館で兵頭教育長に手渡しました。

全児童がカボチャを大事そうに抱え、代表の有馬清悟くん（５年）が「僕たちが大切に育てたカボチャです。町のために役立ててください」と兵頭教育長に手渡すと「今年度で閉校を迎え、カボチャをいただけるのも最後かもしれません。皆さんが大切に育てあげた思いをかみしめながら、給食の食材として活用させていただきます」とお礼の言葉を述べていました。給食センターでは寄贈されたカボチャを11月９日の献立（カボチャのポタージュ）に調理され、町内全小・中学校に提供されます。

中央小児童全員で「友がいるなら」を大合唱

“文化の秋”学芸会シーズン到来。

中央小学校（石井告美校長）と上厚真小学校（横山守校長）両校の学芸会が10月17日に行われました。中央小学校では、プログラム１番目の「はじめのことば」を１年生全員で「全校児童118人が力を合わせてがんばります。上手にできたら拍手をしてください」と元気よくあいさつ。

この日に向けて練習した成果を、子どもたちの成長を楽しみに講堂いっぱいに詰めかけた家族などが見つめる中、一人一人が元気よく伸びやかに発表し、たくさんの拍手が贈られていました。町内各小学校の学芸会は10月に行われ、この日中央小と上小が先陣を切りました。

みんなでペッタン。みつば保育園で！

10月23日、みつば保育園（富里・佐藤泰夫園長）で卒園生の祖父母を招待しての恒例の餅つきが行われました。今回のもち米10kgは、6月２日に年長組４人が佐藤園長の田んぼに苗を手植えしたもので、園児たちの思い入れもひとしお。最初にお父さんたちが下ごしらえし、年長の園児とおばあちゃんが２人１組になって、年下の園児たちの「ヨイショ！ヨイショ！」の掛け声に調子を合わせ杵を振りおろしていました。

その後、つきあがったもちでお母さんたちが調理した雑煮やきなこ餅を、園児13人はおいしそうに大きな口を開けてほお張っていました。

おばあちゃんと一緒にもちをつく園児

笑顔でチャリティーパークゴルフ

町社会福祉協議会主催の第５回チャリティーパークゴルフ厚真米大会が10月14日、秋らしいさわやかな青空の下、町内外から約120人が参加し、和気あいあいと行われました。赤い羽根共同募金と厚真米をＰＲしようと、とまこまい広域農協の協賛で開催し、今年も夏・秋の２回を企画。町内をはじめ苫小牧、千歳などから愛好家が集まりました。

参加者は景品の「さくら米」などを横目に真剣なまなざしでプレー。それでもホールを回る際は談笑する姿があちこちで見られ、チャリティーらしい和やかな雰囲気でパークゴルフを心行くまで楽しんでいました。

気持ちよく豪快にショットする参加者

新味料理11品を自分の舌で確かめる参加者

「お味はいかが?」地域メニュー試食会

厚真調理師会（加藤秀雄代表）が中心となり企画した地域メニュー試食会が10月25日、こぶしの湯で行われ独創性豊かな品々がテーブルに並びました。宮坂町長、河村議長をはじめ商工会や観光協会など約30人が出席。同会は町内飲食店の有志で発足し、町のグリーンツーリズム事業の一環として厚真の食材を活用した独自メニューの研究開発を進めています。マツカワのカルパッチョや鹿オイル蒸しといった知恵とアイデアが生みだした料理のバラエティーが豊富。加藤代表は「厚真のために一つでも多く商品化できるよう頑張りたい」と抱負を語っていました。

発泡スチロールでガイコツを作る子どもたち

夜の仮装にワクワク‼「ハロウィン」

町教委主催による「ハロウィンパーティー」が10月29日、総合福祉センターで町内の小学校児童約100人が参加して行われました。欧米の子どもたちが楽しみにしているこの行事を紹介しようと、本町英語指導助手（ＡＬＴ）のジェニファー先生とメラニー先生や道内各地のＡＬＴ13人が来町、また厚高の生徒や町内中高英語教諭がお手伝いしました。

お化け屋敷や仮装コンテスト、顔にペイントするなどの催しに子どもたちの笑い声や歓声が響き、魔女やミイラなど思い思いに仮装して参加する児童もいて、会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれていました。

幌内地区で「カムイノミ・イチャルパ」

胆振管内の10支部でつくる（社）北海道アイヌ協会胆振地区支部連合会などが主催のアイヌ民族の伝統的儀式「カムイノミ・イチャルパ」が10月３日、幌内地区のヲチャラセナイチャシ跡で行われました。

鮮やかな刺しゅうが施されたアイヌ民族の衣裳を着た参加者が、神々への感謝を込め、魚や果物をささげ古式舞踊などを披露。

冒頭あいさつで同連合会加藤会長が「あらたかな先祖が住んでいたこの場所で感謝したい」と述べ、カムイノミ（神への祈り）やイチャルパ（先祖供養）が執り行われ、厳粛な儀式を約70人が見つめていました。

粛々と儀式を執り行う関係者

劇の最後に歌にあわせてダンスを踊る上小児童

若々しい「黄門様一行」がお立ち寄り!?

上厚真小学校（横山守校長）の６年生11人が10月22日、厚南デイサービスセンターを訪れ、劇やダンスなどを披露し交流を深めました。

総合的な学習の一環で地域福祉への貢献を目的に行われたこの授業で、14人のお年寄りを前に学習発表会で演じた劇「水戸黄門」を一人一人が熱のこもった迫真の演技。施設を利用する海津愛子さん（美里）は「今日を楽しみにしていました。みんな上手でしたよ」と話し、主役の水戸黄門を演じた堀井悠くんは「一生懸命演じました。おじいちゃん、おばあちゃんが喜んでくれてよかったです」と笑顔で話していました。

全道吟舞大会新人の部で華麗に優勝

詩吟・吟舞同好会（藤江利津子代表）に所属する会員が10月10日、聖月流日本吟剣詩舞道会主催の岩見沢市民会館で行われた全道吟詠剣詩舞大会で山野下明音さん（中央小２年）、藤江麻衣さん（上小１年）がともに新人の部で見事優勝に輝きました。道内から500人超が参加する大きな大会。今大会初参加で初優勝の快挙を成し遂げた2人は声をそろえて「この１年間『富士山』という曲を一生懸命練習しました。舞台に立った瞬間は緊張してガチガチになったけど、歌に合わせて大きく踊ることを心がけたことがよかったと思います」と満面の笑顔で話していました。

優勝を喜ぶ藤江麻衣さん(左)と山野下明音さん

町コミュニティ運動推進協議会

「歳末助け合いチャリティー不用品即売会」

◆ ◆ ◆ご協力とご来場を◆ ◆ ◆

とき 12.1 水 午前10時～正午

ところ 総合福祉センター２階青年室

物を大切にする環境づくりを目指し、たくさんの町民の皆さんから寄付いただいている「歳末助け合いチャリティー不用品即売会」を今年も開催します。

寄付していただいた物品は安価で販売し、即売会での収益金の一部を歳末助け合い募金に寄付します。

皆さんのご協力とご来場を心からお待ちしています。

繊維リサイクルにもご協力をお願いします

繊維リサイクルとは、古衣料をウエス（工業用雑巾）に再生することです。「チャリティー不用品即売会には古すぎてだめだけど、繊維リサイクル用としてなら良いかな」という衣料がありましたら寄贈ください。

回収ボックスは通年で、総合福祉センター、厚南会館、京町保育園、宮の森保育園（上厚真）の４カ所に設置しています。繊維リサイクルについてもご協力ください。

ご協力にあたってのお願い

- 衣類、運動用品、台所用品の寄付をお願いします（衣類については洗濯してあるもの）。
- 家電用品、家具など大きくて運びにくいものはお断りしています。
- **回収期間**
  11月26日(金)から11日30日(火)まで
- **回収場所**
  地区のコミュニティ推進員のお宅か
  総合福祉センターまで

問い合わせ先 同協議会事務局（役場まちづくり推進課企画調整グループ内・☎27－3179）

国内初の「シカ塚」を見て感動する参加者

5000年前に思いをはせる 遺跡見学会

教育委員会主催による遺跡見学会が9月16日、幌内のヲチャラセナイ遺跡で行われました。

5000年以上前の縄文時代の大型住居跡３戸やシカ塚、この他土器や石器などを見学。町内をはじめ札幌、苫小牧から訪れた約10人は、乾学芸員から当地が交易ルートだった可能性、出土品の研究などの説明を受け、その後参加者は思い思いのアングルで写真に納めていました。参加者の札幌の男性は「これは貴重な体験。昔の人も知恵を絞り、たくましく生活していたのでは」と遺跡内で当時に思いをはせていました。

安心･安全なマチを願い防犯パレード

町防犯協会（河村忠治会長）および苫小牧警察署では、10月11～20日までの10日間にわたる秋の全国地域安全運動に合わせて10月18日、防犯パレードで厚真市街地を行進しました。行進に先立ち古川副町長が「年末に向けて犯罪が多発する時期。しっかり気を引きしめて」と注意を呼びかけ、続いて苫小牧警察署の東生活安全課長が「今日の防犯パレードを通じて犯罪意識のいっそうの高揚を図りましょう」と激励のあいさつ。

安心・安全のプラカードを先頭に集まった各団体、事業所などの約25人が連なり犯罪撲滅を願いながら、秋色に色づく街を練り歩いていました。

犯罪の無い町を願い行進する参加者

まちの話題 plus plus

力強く勇壮なばちさばきを披露する出演者

厚真塊打太鼓結成15周年。節目を祝う

平成７年に、町の開基100周年を記念して太鼓を購入したことをきっかけに設立された厚真塊打太鼓（森田正樹会長・会員12人）の結成15周年記念祝賀会が10月16日、総合福祉センターに関係者など約100人が集い太鼓の演奏を交えながら盛大に行われました。

祝賀会は迫力のばちさばきで幕開き。続いて宮坂町長、名誉町民の藤原さんなどが祝辞を述べました。祝宴の中では、塊打太鼓が代表曲の「塊魂打」で切れのある華麗なばちさばきを再度披露し、あつま童心太鼓なども応援にかけつけ演奏するなど祝賀会に花を添えました。

文化講演会 講師にアグネス･チャンさん

町教委が主催する町制50周年記念文化講演会が10月26日行われ、約400人がアグネスさんの軽妙かつ心温まる語り口に魅了されていました。香港生まれのアグネスさんは17歳の時に来日し「ひなげしの花」で日本で歌手デビュー。翌年には「草原の輝き」で日本レコード大賞新人賞に輝くなど一世を風靡（ふうび）。その後日本ユニセフ協会大使に就任し、国内外で様々な社会貢献活動を行っています。アグネスさんは講演の中で「これまで大変なこともあったけれど、多くの人に優しくされたから強くなれた」と話し、明るく生きることの大切さを訴える講演に大きな拍手が送られていました。

明るく生きることの大切さを語るアグネスさん

いきいき ふるさと図鑑

出会い

人

父の背中を見ながら一人前の漁師になります

共和 澤口 研太郎（さわぐち けんたろう） さん（22歳）

今春誕生した期待の若手漁師、〝澤口研太郎〟さん。海の男が語る漁師の暮らしと未来の自分。

「5人兄弟でにぎやかな環境で育ちました。よく外で遊んでいましたね。港へ行くのが好きで、天気のいい日なんて気持ちがよくて最高なんですよ。その頃、幼心に『漁師になりたい』なんて言ってましたね。でもまさか本当になるとは…」と笑顔で話す澤口さん。

この春、厚真に戻り漁師になるまでは、苫小牧で牛のエサを生産する工場でオペレーターや電気設備の管理などを任され、4年もの間勤めていた。「その4年間は一人暮らしをしていたんです。一人の時間を持てたのはよかったんですけど、それまでが大家族でワイワイがやがや暮らしてきたから少し淋しくて、仕事から帰宅しての家事も大変でしたね」と振り返る。

「実は就職して1～2年経った頃に漁師を継ごうと思ってたんですよ。両親も大変だろうし、昔から好きだった港や船も恋しくなって、そういう思いが積もり積もって決断したのが去年の12月。『『海の男になろう』と。中学・高校とバレーを続けてきて、人一倍ガッツや根性には自信がありました」。

意気揚々と厚真に戻り海を生涯の職場と決めた澤口さん。「厳しい世界だと覚悟はしていたんですけど想像以上でしたね。まずは『船酔い』の先制パンチ、小さい頃は平気だったのに。朝早いのも大変だった。慣れるまではあれもこれも辛かったですね」と打ち明ける。

4月の頃は、夜10時に漁に出て翌日昼近くに帰ってくる生活を繰り返し、帰宅してからも魚の選別・網の片付けと、どの作業もいっさい手を抜くことなく6カ月を過ごした。これまでの漁の思い出を話す澤口さん「一番の思い出はカニを獲ったことですね。カニのかごって40kgほど、これが重たくて重たくて驚きました。後は父と一緒に仕事ができてる事かな」と笑顔。

「将来は大きな家を建てたいんです。親や家族、みんなが住めるような家を。だから早く一人前の漁師になるよう頑張ります。日ごろ父がこう話すんです『漁は魚の散歩コースをいかに探し当てるか』その観察力もこれから磨いていきますよ」と抱負を話す澤口さんだ。

ペット

私の大切な家族

シロ　♂　13歳　（犬・ミックス）

宇　隆　　高橋（たかはし）　正道（まさみち）　さん家族

秋色深まる高橋さん宅の裏庭で

「以前に飼っていた犬が亡くなってさびしい思いをしていたら、知り合いから『犬をもらってくれない?』と声をかけてもらったんです。シロを初めて見たときの印象は、まるでぬいぐるみのような姿で毛がモコモコ。とってもかわいかったんですよ。あの瞬間を忘れることはないですね」と話す則子さん。

手のひらにすっぽり収まるほど小さかったシロの好物は魚類。嫌いなものはピーマンで、きちんとよけながら食べるという。「シロは人なつっこい性格なんですよ。お客さんが来たらいつも大喜び」。小さい頃から礼儀作法をしつけた則子さん。「食事の前に、『お手・おかわり・伏せ』をさせてから食べさせるんです。すっかり習慣づいていますよ」とニッコリ。「シロは私たちにとって我が子のような存在ですね」と笑顔を見せた。

ペット、本を紹介してください。お気軽にまちづくり推進課企画調整グループまで（☎27－3179）

本

私の出会った素敵な本

「ビロードのうさぎ」

マージェリィ・W・ビアンコ／作

富野小学校教諭　　植田（うえだ）　香苗（かなえ）　さん

富野小学校の教諭として２年目を迎え、この秋ハッピーウェディングで幸せいっぱいの植田先生。「この本は作りものであるうさぎの人形が、子どもに愛されたことで本物のうさぎになったお話しなんです。出てくるうさぎの人形がとても健気で泣かせます」と話す植田先生。

本屋さんに行って表紙のうさぎの人形を見た瞬間、即購入を決意。それは自分も小さい頃にうさぎの人形を集めていたから、それと同時に大人になり引越しの時に捨ててしまったことを、今でも悔やんでいることが理由だった。「大切にされたおもちゃは本物になる…。道徳の授業で題材として取り扱ったんです。子どもたちに物を大切にする心をはぐくんでほしいと思って。何人かは、話の内容に感動し涙していましたね」とその様子を話す。旅行記なども好きな植田先生は「本を読みながらその世界に入り込めるので、自由にいろいろな所へ行けるんです。だから世界一周もできちゃいますよ！」と笑顔がこぼれた。

人のうごき

10月１日～10月31日届出分

★誕生おめでとう　〈２人〉

京　町　沼田　一真（かずま）くん　10/1
（父―洋一さん・母―真衣さん）

錦　町　坂本　梨理愛（りりあ）ちゃん　10/5
（父―龍さん・母―愛さん）

★いつまでもお幸せに　〈１組〉

上厚真（國本　公彦さん
　　堤　　裕子さん　10/10

★ごめい福をお祈りします〈４人〉

桜　丘　森田　トキさん 97歳　10/2
豊　川　段坂　●郎さん 94歳　10/5
本　郷　堀井アキノさん100歳　10/6
吉　野　中田トシエさん 74歳　10/12

（おことわり）
上記は、窓口などで、広報紙への掲載についての確認ができた方を掲載しています。

マチの善意

●社会福祉協議会に寄付
・鹿沼　長谷川　忠雄さん
・桜丘　森田　春男さん
・豊川　段坂　昭さん
・吉野　中田　朗さん

京町保育園「腹話術の交通安全教室」

キッズ12月の予定

子育て支援センター「ゆうゆう島」情報

月	火	水	木	金
※12月31日～１月５日まで、休館となります。１月６日(水)からは、平常通り開所いたします。		1 ぴよぴよ広場	2 開放日	3 開放日、保育園ホール開放
6 開放日	7「ゆうゆう島」は休館。(厚南会館を開放)	8あそびの広場 『お正月用飾り』 ※前日までに予約してね!	9 乳幼児相談	10 開放日
13 「Hello えいご」、開放日	14 開放日	15 ぴよぴよ広場	16 開放日	17 開放日
20 開放日	21 開放日	22あそびの広場 『クリスマス会』 ※前日までに予約してね!	23 休館日	24開放日、午後はおもちゃ洗いのため休館
27 開放日	28 開放日	29 開放日	30 開放日	

毎週水曜日の午後はサークル活動利用日です。お母さんたちの集まりにご利用ください（予約が必要です）。

★子育て支援センター「ゆうゆう島」ホームページはこちらからどうぞ！
厚真町ホームページ　http://www.town.atsuma.lg.jp/
→トップページ→教育・文化→子育て支援センター

✻利用時間　午前10：00～11：30　午後１：00～４：00
✻『ぴよぴよ広場』　第１・３水曜日の午前中（予約はいりません）
０～１歳までのお子さんとご家族が対象です。お子さんを自由に遊ばせながら、親同士の情報交換の場としてご利用ください。
✻『あそびの広場』　第２・４水曜日の午前中
１歳～就学前までのお子さんとご家族が対象です。手遊び・ゲーム・製作など、季節の遊びも取り入れ、親子で楽しみましょう。
✻『Hello えいご！』　開催日午前中（英語のメラニーさんが来てくれます）
遊びながら英語に触れることができます。年齢に関係なくお越しを！
✻開放日には、お気軽に遊びに来てください。
✻電話相談（９：30～17：00）・来所相談（10：00～16：00）・予約、そのほかお問い合わせなどは
☎27－2438（直通）　子育て支援センターへ!!

ホッと　ひといき

「町民の皆さんを家族と思い取材している」。遅ればせながら６カ月が過ぎた今、その意味が少しわかった気がする。かけがえのない家族の事だから、カメラ片手にかけつけ一喜一憂している自分がいるのだと。「拙い文章、下手くそな写真は承知の助だ。だが４９１２人の家族に、これからも気持ちだけは込めて作ることを約束したい。今、２冊目のノートを開こうとしている。しばしの間いっしょに頑張ることを誓い合った。（田）

１冊目の取材ノートを終えた。いつもズボンのポケットに突っ込んでいたため、なんとも痛ましいボロボロな姿と化していた。そう春からこの間どれほどの人に協力を得ただろう。少し数えてみようか。「１、２、３…多すぎる。あきらめよう」。広報担当になり、当然ながらもあらためて気づかされたことがある。町民の皆さんの協力なしでは広報紙を作ることができないことを。
少し前に前任者が話していた言葉を今思い返した。

Quiz・クイズ

「広報あつま」を読んでクイズに応募すると、正解者の中から抽選で５人に、今月は『こぶしの湯入浴券』をプレゼントします。

問　題

神奈川県で、絵本作家として活躍している石橋真樹子さん。その父親の俊樹さん（ルーラル）から10月12日、かわいらしい絵本を保育園などにたくさんいただきました。絵本のタイトルは?

【ヒント】今月号の広報を見てね。

▶応募方法　ハガキかＦＡＸで、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号と、広報や町のことについての意見・感想等を書いてください。

▶しめ切り（当日消印有効）　11月30日（火）

▶あて先　〒059－1692　厚真町京町120
厚真町役場　広報クイズ係（FAX 27－2328）

【10月号の答え】　南町自治会Aチーム

【10月号の正解者】10月号の応募者は12人で、全員正解でした。抽選の結果当選された方には、後日賞品を発送します。

みんなの広場

みんなの声

みなさんの声をお寄せください

・こんな記事を読んでこう思った。
・こんな疑問を持っている。役場のみなさん教えてなどどんなことでも結構です。

紙面は無記名ですが、住所や氏名、性別、年齢は伺います。

●まちづくり推進課　電話 27-3179　FAX 27-2328

異文化交流事業　**町国際交流協会**

モンゴル料理「ボーズ（肉饅頭）」に挑戦

町国際交流協会（館山睿会長）では、他国の食文化とふれる異文化交流事業を毎年開催しています。今年も苫小牧駒澤大学のご協力により、昨年に続いて金内花枝先生のほか、モンゴルからの留学生など６人をお招きしてモンゴル料理作りに挑戦します。
皆さんのご参加をお待ちしております。

■と　き　12月３日(金)午前10時～午後２時ころ
■ところ　総合ケアセンターゆくり
■予定料理　ボーズ（肉饅頭）、じゃがいもスープ、ミルクティ（塩味）
※作った料理は試食します
■参加料　300円（材料費・保険料）
■申し込み期限・人数　11月24日(水)・先着20人
■申し込み先・問い合わせ先
町国際交流協会事務局
（役場まちづくり推進課内 ☎27－3179）

子育て支援センター「クリスマス会」

『サンタさん来るかな･･･?』

とき　12月22日（水曜日）
10：30 ～ 11：30

内容　手品・遊戯・パネルシアター等

ところ　子育て支援センター「ゆうゆう島」

対象者　０歳～小学校就学前

申し込み　12月15日（水曜日）15組まで

申し込み先　子育て支援センター
☎27－2438（直通）

※定員になり次第しめ切りとさせていただきます。

サークル訪問 20

厚真さくら

代表／兜谷さゆりさん
会員／16人
活動日／週２回（月or火、金）
活動場所／スポーツセンター・厚南中学校
対象／結婚歴があるか又は既婚者、独身なら35歳以上
連絡先／☎090－5225－1903（代表携帯）

体育館内に“さくら”の笑い声が渦巻いている。代表の兜谷さんは「笑顔が絶えないチーム。和気あいあいと楽しくプレーするのがモットーなんです」と話す。チーム内の年齢差はなんと34歳！だがその雰囲気は、ジェネレーションギャップなど全く感じさせないほど和やか。

「試合や練習でも冗談やギャグを言ってお腹を抱えて笑ってるんです。それがチームワーク抜群の秘訣ですかね」と笑う。苫小牧地区の連盟に加盟し、月１回行われる大会に参加。“会員の夢”心は一つ『全道大会』に行くことだ。「本当はもっと人数を増やしてシニアチームも作りたいんです。若者VSシニアで試合ができればいいな～。とにかく体を動かすことが好きな人、同じくらいに宴会も好きな人、大歓迎ですよ」と兜谷さんは笑顔を見せた。

掲載を希望するサークルなどはまちづくり推進課企画調整グループへ（☎27－3179）

厚高インフォメーション

137

打って、走って、盛り上がる

十月に入り、厚高も後期の授業が始まりました。

三年生は、進路の決定に向けて頑張る時です。また一・二年生も、勉強の成果を上げるために、より努力をしなければならない時期です。生徒たちの奮闘に期待したいと思います。

そんな中、十月八日に秋の恒例行事である「屋外スポーツ大会」が行われました。

穏やかな天候の下、ソフトボールが行われ、全校生徒が九つのチームに分かれ、ブロックごとの総当たり制で、優勝を目指し戦いました。一チームあたり一日四試合の「強行日程」です。

ゲームは「男子ばかりが続く打順にしない」「守備は九人で行うが、打席には控えの者も立つ」といった特別ルールで行われ、勝ち負けを競いつつも、上級生・下級生の区別なく、和やかに大会を終えることができました。

学校行事は、生徒全員が参加することに意義があります。

今度は、十二月に「屋内スポーツ大会」が行われます。その時も、全員の協力で楽しい一日にしたいものです。

今月の記念日

11月1日は「紅茶の日」

海難に遭ってロシアに漂着した日本人の船主、大黒屋光太夫が、1791年の11月、女帝エカテリーナ2世に接見。茶会に招かれ、日本人として初めて外国での正式な茶会で紅茶を飲んだという史実を基に、11月1日が「紅茶の日」と定められました。日本紅茶協会では毎年この日に、音楽やトークショーと一緒に紅茶を味わうイベントを開催しています。

日本が初めて紅茶を輸入したのは1887(明治20年)。原産地の中国からではなく、イギリスからでした。ヨーロッパ文化の憧れもあり、紅茶は、日本の茶の湯の伝統にも匹敵する舶来の文化として、上流社会でもてはやされました。

かつては日本でも生産されていた紅茶ですが、輸入が自由化された1971(昭和46年)以降、日本で販売される紅茶は輸入品に切り替わりました。紅茶の消費量も、ティーバッグの導入や缶入り紅茶ドリンクの開発などをきっかけに飛躍的に増えました。

紅茶は産地や種類によってポリフェノールなどの成分量が異なるため、ひと口で紅茶の効能を語るのは難しいといわれています。しかし、世界中で消費される8割近くが紅茶という事実は、紅茶がだれからも愛される飲み物であることを証明しています。

日本紅茶協会のウェブサイトでは、「お湯は沸騰直後のものを」「カップは内側が白く、香りが広がりやすい浅いかたちのものを」など、おいしい紅茶の入れ方が解説されています。「季節のおいしいレシピ」では、季節ごとの食材やイベントに合わせたおいしい紅茶のレシピを紹介。また、同協会が認定した全国のおいしい紅茶が飲めるお店の情報も掲載しています。

今秋は、さまざまな紅茶の香りや味を楽しんでみてはいかがでしょうか。

＊日本紅茶協会　http://www.tea-a.gr.jp/

文芸あつま ◆短歌◆

年金に生活まかなふ我が暮し消費税上ぐるとふ先を愁ゐぬ　（上野　宮崎　静恵）

テレビ見て新聞見ても悪き事あまりに多く心の痛む　（本郷　湯浅　悦子）

札幌時計台気づかぬままに通り過ぐビルの谷間に首すくめをり　（宇隆　加賀谷明美）

（あつま文芸友の会発行『文芸あつま　第十五号』から抜粋）

わたしたちの作品

厚真中央小　1年
宮野　茉央さん（6）
「消防車を描きました。ホースをうまく描けたよ。はしごのところは大変だったな。絵は好きです！」

厚真中央小　3年
畑　果澄さん（9）
「厚真バスです。室内の様子は上手に描けたんだけど、バスの模様がちょっと…。だから点数は75点」

ぼくの・わたしのクラスじまん　ともだちっていいな

その103　上厚真小学校

上小・富小合同の「社会見学」

紹介してくれたのは…

上厚真小学校3年生のみなさん

（書いてくれたのは）加瀬谷咲良さん、長門実空さん

私たちのクラスは、男の子が2人、女の子が6人、合わせて8人います。上厚真小学校では一番人数が少ない学級です。でも、どの学校のどの学年にも負けないくらい元気いっぱいです。たまにケンカもしてしまいますが、2年生の時よりも早く仲直りできるようになりました。またみんなおしゃべりずきで、時々、先生におこられることもありますが、とても楽しいクラスです。

クラスの中には、めっちゃ計算が速いのんびり屋さん、水泳がとくいなカッパの子、野球ずきでかっこつけな子、お琴もひける空手少女、EXILEみたいにダンスが上手な子、ノーベル賞をとる予定のこん虫はかせ、みんなをうっとりさせる天才ピアニスト、かいじゅうみたいで楽しい女の子…、ホントにいろんな人がいます。

（ついでに先生は、おなかが出ているわすれんぼです）

10月にあった学習発表会では、歌とき楽とダンスをしました。き楽は、さいしょそろわなかったけど、音楽の時間や休み時間などにもがんばって練習したので、本番では上手にできたと思います。

これからも仲良く、もっと明るく、そして、みんなでがんばるクラスにしていきたいです。

◆町民福祉課は総合ケアセンター『ゆくり』内(☎26-7871)に、子育て支援センターは京町保育園に併設されています(☎27-2438)。

ほけんの掲示板

12月

両親教室

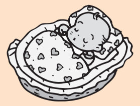
とき　13日(月) 18:30〜20:30
ところ　総合ケアセンターゆくり
対象　妊婦さんとパートナー
持ち物　母子手帳、筆記用具
申し込み　12月8日(水)までに町民福祉課健康推進グループ(保健師)へお申し込みください。

乳幼児健康相談

とき・ところ　9日(木)
10:00〜11:00
子育て支援センター
対象　H21.9.10〜H22.10.9生まれのお子さん
持ち物　母子手帳、バスタオル

なかよし広場・乳幼児健康相談(厚南会館)

とき・ところ　7日(火)・厚南会館
受付　10:00〜10:45
対象　H21.9.8〜H22.10.7生まれのお子さんと保護者
持ち物　母子手帳、バスタオル
内容　10:00〜11:00　計測、相談、自由遊び
11:00〜11:30　なかよし広場
(手遊び、パネルシアターなど)
その他　乳幼児相談となかよし広場を同時に開催します。計測は上記の対象児に行いますが、なかよし広場は就学前のお子さんならどなたでも参加できます。



MR混合(麻しん・風しん)予防接種

とき　20日(月)〜24日(金) ※23日(木)は休診です。
ところ　あつまクリニック
受け付け　接種希望当日に町民福祉課で受け付けを行ってください。
受付時間は9:00〜11:30、14:00〜16:30です。
対象　①生後12カ月〜24カ月までのお子さん
②平成16年4月2日〜平成17年4月1日生まれのお子さん(小学校就学前の1年間にあたるお子さん)
③中学1年生(平成9年4月2日〜平成10年4月1日生まれの方)
※上記以外の場合は保健師にご相談ください。
持ち物　①②の方…母子手帳、印鑑
③の方…母子手帳、予診票様式三、(保護者が同伴できない場合は、予診票様式四《保護者が署名したもの》をご持参ください。

三種混合予防接種

とき　13日(月)〜17日(金)　※16日(木)午後は休診です。
ところ　あつまクリニック
受け付け　接種希望当日に町民福祉課で受け付けを行ってください。**受付時間は9:00〜11:30、14:00〜16:30です。**
対象　①1期初回－初めての場合には、生後3カ月〜12カ月までが標準的な接種年齢となります。1期初回を1回以上接種して、生後12カ月を越えている場合は48カ月までにできるだけ終了してください。
②1期追加－1期初回接種(3回)終了後、12カ月〜18カ月までにできるだけ終了してください。
※上記以外の場合は保健師にご相談ください。
持ち物　母子手帳、印鑑

12月の日曜・祝日当番医

日程	区分	病院名	住所(苫小牧市)	電話番号(0144)
5日(日)	内科系	加藤胃腸科内科クリニック	緑町2－5－3	35－2125
	外科系	苫小牧東部脳神経外科	北栄町2－27－12	53－5000
12日(日)	内科系	にっしん内科クリニック	日新町2－6－43	71－1500
	外科系	同樹会苫小牧病院	新中野町3－9－10	36－1221
19日(日)	内科系	すがわら内科呼吸器科	しらかば町1－18－9	76－7011
	外科系	苫小牧日翔病院	矢代町2－9－13	72－7000
23日(木・祝)	内科系	さくらファミリークリニック	東開町3－17－21	55－6526
	外科系	とよた腎泌尿器科クリニック	元中野町2－17－12	31－2000
26日(日)	内科系	錦岡医院	宮前町2－33－4	67－0013
	外科系	苫小牧消化器科外科	北栄町3－5－1	51－6655
31日(金)	内科系	すえくに医院	川沿町6－20－13	72－8385
	外科系	江夏泌尿器科医院	木場町2－8－1	33－3855

(診察時間)9:00〜17:00
当番医は変更になることがあります。
新聞等で確認するか、当日病院へお問い合わせください。
(お知らせ)
『北海道救急医療・広域災害情報システム』を利用して近くの医療機関などが検索できます。
ホームページアドレス
http://www.qq.pref.hokkaido.jp
電話　フリーダイヤル　0120－20－8699
携帯電話・PHSからは
011－221－8699

苫小牧市夜間休日急病センター(内科・小児科のみ)

曜日	受付時間
月曜日〜金曜日	19:00〜翌朝7:00
土曜日	14:00〜翌朝7:00
日曜日	9:00〜翌朝7:00
年末年始(12/31〜1/3)	9:00〜翌朝7:00

(住所)苫小牧市旭町2－9－2
(電話番号)0144－35－0001
※休日は当番医のほかに、急病センターも診察を受け付けています。

★「苫小牧市医師会ホームページ」にも休日当番医表を掲載しています。
http://www.toma-med.or.jp/
また、携帯電話でも休日当番医のWebサイトにアクセスできます。
携帯電話用　URL　http://www.toma-med.or.jp/phone/
※ご利用の携帯電話の種類によっては、うまく表示できない場合がありますのでご了承願います。

健康情報

今月の担当
保健師　岡澤(おかざわ)　恵(めぐみ)

乾燥に気をつけよう!

冷え込みが厳しくなって、空気の乾燥が気になる季節になりました。みなさんは乾燥対策としてどのようなことをされていますか?　のどの痛みや皮膚のかゆみが気になる方も多いと思います。毎年のことながら、乾燥の時期を快適に過ごす方法を考えてみましょう。

1 空気の乾燥でおこるのどの痛みや皮膚のかゆみ

この季節、乾燥して咳き込んだりのどが痛くなったりする方も多いでしょう。のど(気管)は粘膜に覆われていて空気中の雑菌やウイルスが体内に侵入するのを防いでいます。しかし、乾燥すると粘膜を覆う粘液が固まり働きが悪くなって、ウイルスを排除する機能が低下してしまいます。乾燥するとのどが痛くなりやすいのは、ウイルスや細菌がのどに付いて炎症を起こすからなのです。また、そのウイルスなどを排出しようとして咳がでるのです。炎症の部分から細菌やウイルスが侵入し、全身に行き渡ると発熱や下痢嘔吐などの症状を起こすこともあります。

また、皮膚の突っ張る感じやかゆみ、白く粉をふいたようになるなど、乾燥による皮膚の変化も強く感じる方が多いと思います。健康な皮膚はのどの粘膜と同じように、体に害を与える異物の侵入を防ぐバリア機能が備わっています。しかし、乾燥した皮膚は外からの刺激によって炎症を起こし、バリア機能が著しく低下することになります。また、その時に皮膚の神経が皮膚の表面近くにまで伸びることと、「ヒスタミン」という物質が放出されることで、神経が刺激を受けやすくなります。乾燥してかゆみを感じるのはこれらの神経への刺激が脳に届くことでおこります。

2 知っておきたい乾燥対策

①のどの乾燥対策は…

★「うがい」をする

うがいをするとのどが刺激されて喉頭腺(こうとうせん)から分泌液が出て、のどを潤します。うがい薬の使用もいいのですが、水道水でも十分効果はあります。

★「こまめな水分補給」

水分補給をすることで、のどを潤すだけではなくのどに付いたウイルスなどを洗い流す効果があります。夜間にのどの痛みを感じやすい方は、コップ1杯の水を準備して就寝し、目が覚めたときに飲むとよいですね。

★「マスクの使用」

マスクはウイルスの侵入や飛散を防ぐ目的で使用することが多いと思いますが、どちらも100%ではありません。他にも「吸う空気を温め湿気を与える」効果があり、適度な湿度のある空気を吸うことでのどの乾燥を防ぐことも大切です。二つの効果を上手に利用しましょう。

②皮膚の乾燥の対策は…

★「保湿剤を使用する」

皮膚の乾燥やかゆみを防ぐには保湿剤を使用して乱れた角質を整えることが大切です。1週間ほど使ってみて「刺激感がなく使い心地がよい」、「効果を実感できる」などご自分に合ったものを使いましょう。塗る際は「朝晩しっかり十分に塗る」、「入浴後10分以内に塗る」、「すり込まない」、「冬期間は継続する」を心がけましょう。

★「皮膚に過度の刺激を与えない」

過度の刺激でかゆみが強まり、それをおさめるためにさらに刺激を与え皮膚を傷つける悪循環となります。「入浴時はゴシゴシこすらない」ようにし、高い湯温は体の水分の蒸発が早まり乾燥が進むので注意しましょう。また、「けばだった衣服を避ける」ことで刺激をおさえましょう。

③湿度を保ちましょう!

部分的なケアも大切ですが、毎日を過ごす空間の湿度にも注意が必要です!のどや皮膚の乾燥にも効果的です。

★部屋の湿度を50~60%に保つ

加湿器の使用や洗濯物、濡らしたタオル類を干す、暖房の温度を高くしすぎない、観葉植物を置くなどで部屋の湿度を保ちましょう。観葉植物は蒸散という作用によって湿度を上昇させるのですが、蒸散量が多いものにゴールドクレストやベンジャミンがあります。

★家電の使用方法に注意!

冬になるとストーブ類だけでなくコタツや電気毛布など暖房器具や寝具も多く登場します。コタツで長時間寝てしまうことや、電気毛布の温度設定を高くしすぎることは体内の水分が奪われて乾燥が進むことになってしまいますので注意しましょう。

【役場町民福祉課健康推進グループ】

相談

「困りごとなんでも特設相談所」を開設します

毎日の生活の中で、いじめ・差別、家庭内での暴力、職場でのいやがらせ、ストーカーなどの人権問題ではないかと感じたり、不動産・金銭のトラブル、相続・戸籍などの法律の内容がわからないなどの困りごとはありませんか。困りごとがあったら、お気軽に相談ください。

相談は無料で、秘密は厳守します。

■**日　時**　12月7日（火）
午後1時から午後4時まで

■**場　所**　総合福祉センター

■**相談員**　本町人権擁護委員

■**問い合わせ先**
札幌法務局苫小牧支局
（☎0144－34－7151）

催し

東胆振精神保健大会が行われます

東胆振精神保健協会では、次により東胆振精神保健大会を行います。お気軽にお越しください。

■**日　時**
11月20日（土）
午後2時30分～3時30分

■**場　所**
苫小牧市民会館3F 小ホール

■**内　容**
「であいふれあいいたわりあい」
～人は一人では生きていけない～

■**講　師**　松永俊之さん
（元HBCアナウンサー）

■**入場料**　無　料

■**問い合わせ先**
東胆振精神保健協会（事務局／苫小牧保健所内、☎0144－34－4168）

許　可

さくらますの船釣りにはライセンスが必要です

平成22年12月15日から翌年3月15日までの制限期間にライセンス海域で、さくらますの船釣りをするにはライセンスが必要です。

また、ライセンスの取得を希望する方は、申請（11月5～25日・原則）しなければなりません。

■**問い合わせ先**
胆振海区漁業調整委員会（胆振総合振興局水産課内）
（☎0143－24－9812）

検　査

HIV抗体検査を行います

北海道苫小牧保健所では、定例（月4回）の検査に加え、次の日程で日中・夜間検査を実施します。

■**相談日（予定・事前に要予約）**
12／6（月）・12／7（火）
両日とも時間は午前9時から午後7時まで

■**場　所**
苫小牧保健所

■**内　容**
[1]無料で匿名検査です（有料となる場合がありますので、事前に電話でご確認ください）。
[2]検査（採血）後、約90分後に検査結果をお知らせする予定です。
[3]検査時間については、事前に電話でご確認ください。

■**問い合わせ・予約先**
北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室（北海道苫小牧保健所、苫小牧市若草町2丁目2―21、エイズ専用電話☎0144―35―7474）

講　座

生涯学習通信講座の受講生を募集しています

NHK学園では、生涯学習通信講座の受講者を募集しています。趣味・教養から語学・資格まで、幅広いジャンルの講座が200コース以上あります。通信講座で新しい趣味・スキルを身につけてみませんか。

まずは、無料の案内書をご請求ください。

■**受講期間**
3カ月～1年（講座によって異なります）

■**受付期間**
通年で申し込みを受け付けています。

■**案内書請求フリーダイヤル**
☎0120－06－8881

制　度

預金保険制度についてのお知らせ

預金保険制度とは、金融機関が預金保険料を預金保険機構に支払い、金融機関が破綻した場合に、一定額の預金等を保護するための保険制度です。

預金保険制度の中では、同制度の対象となる金融機関、対象となる預金等と保護の範囲、同制度で保護されていない預金等の取扱い、金融機関が破綻したときの預金保護の仕組み（保険金支払方式、資金援助方式）などが定められております。

制度概要の詳細につきましては、金融庁および預金保険機構ホームページに掲載されておりますのでご覧ください。また、預金保険制度にかかる資料をご希望の方は、北海道財務局（または財務事務所・出張所）までご連絡ください。

■**問い合わせ先**
金融庁ホームページ
（http：//www.fsa.go.jp/policy/payoff/index.html）
預金保険機構ホームページ
（http：//www.dic.go.jp/）

寄　贈

厚中の有馬康喜くん（1年）が学校給食センターにカボチャ20個を寄贈

12月の運転免許証更新時講習の日程

苫小牧市交通安全センターで行っている運転免許証更新時講習（優良）の日程をお知らせします。

◆午前10時開講：1日（水）、3日（金）、7日（火）、8日（水）、10日（金）、14日（火）、15日（水）、17日（金）、22日（水）、27日（月）、28日（火）
◆午後1時30分開講：2日（木）、16日（木）
◆午後3時30分開講：9日（木）、21日（火）
※このほかの講習日程（一般、違反、初回）については、下記までお　問い合わせください。
※優良は5年以上継続して免許のある方で、過去5年間無事故・無違　反の方。

■**問い合わせ先**　㈳苫小牧地区交通安全協会（☎0144－33－1458）

被害者等のための各種相談窓口

警察では、事件や事故で被害にあった方や家庭内暴力、ストーカー、お子さんのいじめ問題などで悩んでいる方などの相談を受け付けています。

また、事件や事故による心の傷が癒されず悩んでいる方のために、民間被害者相談窓口のプロのカウンセラーがあなたのお話をお聞きします。

被害者犯罪
・性犯罪被害110番　☎0120－756－310
・少年相談110番　☎0120－677－110
・暴力相談電話　☎011－222－0200
一般相談　専用電話＃9110
民間被害者相談電話
・北海道被害者相談室　☎011－232－8740
・苫小牧地区被害者相談室　☎0144－37－7830

犯罪被害給付制度について

犯罪被害給付制度は、不慮の犯罪行為によって亡くなられた被害者の遺族の方や障害が残ったり、一定の要件に該当する重傷病を負った被害者の方に対して国が給付金を支給し、その精神的・経済的打撃の緩和を図ろうとする制度です。

詳しい内容については、警察本部または最寄りの警察署にお問い合わせください。

北海道の「食」を応援しませんか？
『北のめぐみ愛食応援団募集』

“愛食運動”の輪をより一層広げていく為「地産地消」、「食育」等の活動を実践していただく『道内の企業や団体（支店、支部を含む）及び3名以上のグループ』を募集します。「愛食応援団」の取り組みは、道のホームページでご紹介していますので、ぜひご登録下さい。

申請先
●申請者の所在がある総合振興局または振興局
●申請者の事務所等が複数あり、所在地が2つ以上の総合振興局又は振興局をまたがる場合は、道庁農政部

※申請方法など詳しくはホームページをご覧ください

税務署からのお知らせ
～　相続又は贈与等に係る生命（損害）保険契約等に基づく年金の税務上の取扱いの変更について　～

相続、贈与等により取得した生命保険契約や損害保険契約等に係る年金の所得税の取扱いを改めることとしました。

この取扱いの変更により、所得税の還付を受けることができる場合があります。

詳しくは、国税庁ホームページ【www.nta.go.jp】又は苫小牧税務署（☎0144－32－3165《代表》）にお問い合わせください。

自衛官募集案内

募集種目	応募資格	受付期間	試験日程
陸上自衛隊 高等工科学校生徒 （一般試験）	平成23年4月1日現在 15以上17才未満の男子	平成22年 11月1日（月）から 平成23年 1月7日（金）まで	試験期日　平成23年1月22日（土） 試験種目 筆記（国・数・理・社・英・作文） （中学校卒業程度）
陸上自衛隊 高等工科学校生徒 （推薦試験）	平成23年4月1日現在 15以上17才未満の男子	平成22年 11月1日（月）から 平成23年 1月6日（木）まで	試験期日　平成23年1月15日（土）～17日（月）の間指定する1日 試験種目　口述試験、基礎学力試験および身体検査 試験場所　陸上自衛隊高等工科学校

■**問い合わせ先**　自衛隊札幌地方協力本部苫小牧出張所（☎0144－32－3725）

地デジ放送受信用 チューナー の貸出を行っています

平成23（2011）年7月24日に現在のテレビ放送（アナログ放送）は終了します。

地デジテレビの購入を考えているけれども、自宅で地デジ放送が受信できるか不安を感じているいる方はいらっしゃいませんか。

町では、「地上デジタル放送受信用チューナー」の貸し出し（期間は1週間）を行っています。

地デジテレビ購入前の事前チェックに、または、地デジ放送の体験にご利用ください。

地デジチューナーのイメージ図

問い合わせ先
役場まちづくり推進課企画調整グループ
TEL 27－3179　FAX 27－2328　E-mail machidukuri.h@town.atsuma.lg.jp

広報あつま
広報紙はホームページでもご覧になれます
ホームページ上にはカラー写真で掲載しています

宮武（みやたけ）　大悟（だいご）くん
H 19・10・12 生
父― 真　悟さん
母― 真　理さん
（新　町）

●― わが家のアイドルはこんな子です。―●

「いつもマイペース、おだやかな性格の子ですね。ミニカー・ボール・ブロックさえあれば、いつも笑顔。家で毎日パパと一緒に車の本を見たり、ギターをさわったりして遊ぶのが大好きなんです」

まちのアイドル331

鈴木瞬次朗（すずき しゅんじろう）くん
H 19・10・28 生
父― 直　樹さん
母― り　ささん
（上厚真）

●― わが家のアイドルはこんな子です。―●

「3人兄弟の末っ子なので甘えん坊ですね。兄弟仲が良くてお兄ちゃんとは戦隊もののおもちゃ、お姉ちゃんとはママゴトをして遊んでいます。仕事に出かけるパパを毎朝見送るやさしい子です」

■今月の表紙

10月29日、恒例の「ハロウィンパーティー」が総合福祉センターで行われました。最後の仮装コンテストでは、子どもたちが魔女やカボチャのキャラクターなどに着飾った姿をステージでかわいらしく披露していました。

■今月の内容

子育て支援センター特集
マチの家計簿
第11回健康ふれあいマラソン大会
虫歯のない子23人を表彰
まちの話題
チャリティー不用品即売等のお知らせ
いきいきふるさと図鑑
みんなの広場
まなびや
健康情報・ほけんの掲示板
情報ひろば

2010年11月

NO. 699

10月末現在の人口
4,901人（前月比－11）
男 2,387人／女 2,514人
世帯数 2,043（前月比－5）

発行／北海道厚真町
企画・編集／まちづくり推進課企画調整グループ
ホームページ http://www.town.atsuma.lg.jp/
〒059－1692 北海道勇払郡厚真町京町120番地
☎(0145)27－2321
メールアドレス atsuma@town.atsuma.lg.jp